

《サーフィンが大好きな家族の移住ストーリー》

愛知県田原市
定住・移住ウェルカムガイド

サーフィンと たはら暮らし



CONTENTS

- 「子どもと一緒に、サーフィンを楽しむ」
- 「自分の好きなコトができる幸せを体感」
- 「心から満たされる暮らしを実現」
- 「自宅から波のチェックができる喜び」

奥様から見た“移住の本音”
田原市のサーフポイント



サーフィンとたはら暮らし

朝・昼・夕と、さまざまな表情を私たちに魅せてくれる海。
「サーフィン」は生活の一部であり、なくてはならない存在。
海を見るだけで心癒され、
海に入ると日頃の疲れが吹っ飛ばすほど没頭して、
気付くと1日海にいたりすることもしばしば…。

愛知県渥美半島にある田原市。
ここには、たくさんのサーフィンスポットがあり、
コンスタントに波があり、ビギナーからエキスパートまで
それぞれサーフィンを心から楽しんでいます。
週末になると全国からサーファーが集まり、
全国大会や世界大会も開催されています。

サーフィンがもっと暮らしの中に身近になれば良いのに。
サーファーは誰しもそう思います。
自分たちの生活圏内に海があり、毎日サーフィンができる幸せ。

そんな幸せが叶う場所、田原市で、あなたならではの
「サーフィンとたはら暮らし」を実現してみませんか？



杉原康幸プロ / photo: M.Kitamura



鈴木マリーンプロ / photo: 近藤洋介



増山裕亮プロ / photo: 近藤洋介



鈴木勝大プロ / photo: 近藤洋介

サーフィンが“しくて” “たはら暮らし”はじめました。

サーフィンが大好きで、大好きで。

田原市に移住した家族がいます。

移住して感じる、田原市の良さとサーフィンのある暮らしを紹介します。



P 04

会社員：菅原さん



P 06

農業：森屋さん



P 08

美容師：馬淵さん



P 09

飲食業：清水さん



P 10

奥様から見た“移住の本音”

■ コンスタントに波があるからこそ開催される さまざまなサーフィン大会



愛知県田原市では、サーフィンのビッグイベントが催されています。2016年8月23日(火)～28日(日)には、国内最大級の大会「第51回全日本サーフィン選手権大会」が、太平洋ロングビーチとロコポイントで開催されました。国内から1,000人近い競技者が集結し、ショートボード・ロングボード・ボディボードのアマチュアNo.1を決める熱い戦いが繰り広げられました。大会当日は、台風のうねりが入り、頭オーバーのグッドコンディションの波。スピード感のある技の数々を繰り出す選手たちで大盛り上がりとなりました。

子どもと一緒に、サーフィンを楽しむ。

～ 会社員 菅原さん編 ～

菅原 舞人 さん(16歳)
父の影響でサーフィンを始め。小学6年生のときに初出場した大会で初優勝を飾り、現在さまざまな大会で活躍中。

菅原 秀児 さん(46歳)
北海道生まれ。高校卒業後、愛知県豊田市で就職しサーフィン始める。転勤の希望先に田原市を選択し移住。3児の父親。

「早朝から2人でサーフィンをして、 そこから仕事や学校へ。最高の暮らしです!」

— izzoo、田原市に移住？

菅原(秀児)さん：今から12年ほど前です。北海道で生まれ高校を卒業し、就職で1990年くらいに豊田市にきました。20歳くらいのときにサーフィンを始め、それから10年ほど豊田市から田原市の海へ、毎週通っていました。ちょうど転勤のタイミングで、豊田市の周辺か田原市か、という選択肢があり、迷わず田原市を選びました。「これで毎週通わなくてすむな」とうれしかったですね。一度豊橋市に住み、田原市の42号沿いの海側の土地を探していて、今の場所に家を建てました。

— 田原市に住んで、サーフィンのルーティーンは変化しましたか？

菅原さん：仕事の前や後に、海に気軽に入ることができるようになりました。朝は、息子と一緒に入ることも多いので、6時半くらいまで入りそのまま着替えずに家に帰り、会社や学校に行きます。夕方は帰宅後、真っ暗になるまで海に入っています。
舞人さん：4時くらいにお父さんとサーフィンをして、帰ってシャワーを浴びて学校に行きます。課外がある日はそのまま登校して、課外のない日は1時間くらい寝てから登校します。



1	2	1.海の近くに住んで、よりサーフィンが身近になったと話してくれた菅原さん 2.着替えは自宅です々々 3.朝ご飯のヒトコマ。家族5人で朝食を食べる 4.太平洋ロングビーチもホームポイントのひとつ
	3	
4		



Q: ホームポイントは?
A: ロングビーチ・チキン

Q: ショートorロング?
A: ショートボード

Q: サーフィン歴は?
A: 26年

Q: 住まいから海まで何分?
A: 車で5分

菅原さん Q&A

—— サーフィンの魅力とは？

菅原さん：いつまでたっても満足できないところです。もっと良い波に乗りたいし、ずっと海に入っていたいと思います。

舞人さん：陸上でするスポーツと全然違う感覚が味わえるところです。体全部を動かさないと板が動かないので、長く乗って良い技を決めて…というのが、サーフィンの魅力だと思います。

—— 親子で共通の趣味があることが素敵ですね。

菅原さん：とても楽しいですよ。サーフィンをすると、たくさん繋がりができるんです。例えば、僕の友だちが息子の友だちになったり、息子の友だちが僕の友だちになったり。いろんなことを吸収できるので、考え方に幅もできます。

舞人さん：朝が苦手なので起きるのはきついけど、一回海に入れば目が覚めます。でも、朝楽しい代わりに、授業中とか少しだけ眠くなってしまいうこともありますね。

—— 実際に田原市に暮らしていかがですか？

菅原さん：最高ですよ。住んでいる場所が古くからある地域なので、今は少なくなったのですが、毎月の地域活動には必ず行きますね。地域の人たちがみんな優しくしてくれるので楽しいです。

舞人さん：お父さんの影響でサーフィンを始めたので、とても良い環境に住んでいるな～と思います。

—— 小さな地域の中に溶け込むために不安はありませんでしたか？

菅原さん：特にはないです。古くからある地域だからこそ、毎月のお役や寄り合いが多く、必ず参加しています。地域活動も多いから気軽に飛び込めるので、とても楽しく暮らしています。現在、僕の両親も北海道から呼び寄せて、一緒に住んでいるんです。住んでみてさらに田原市を好きになりましたね。

自分の好きなコトができる幸せを体感。

～ 農業 森屋さん編 ～



森屋 政則 さん(37歳)
東京都練馬区生まれ。埼玉県川越市育ち。美容師を経て、田原市へ移住。現在は自然栽培の農業を営む。

「小学生の頃から海が見える暮らしに憧れていて。その理想を家族で実現しました。」





—— 田原市に移住したきっかけとは？

もともと美容師をやっていた、その後メーカーに勤めていたのですが、子どもが小さい頃、休みが全然取れなくて。海も遠く、往復6時間くらいかかる場所だったので、自分の好きなことをやろうと思って、海がそばにある田原市に移住を決めました。

—— 現在、自然栽培の農業を営んでいるそうですね。

どんな仕事を…と考えたときに、農業をやってみたいと思い、無農薬無肥料で栽培し、通販を行う農業法人にお世話になっています。みんな、土地がある人たちが農業を引き継いでいると思いますが、僕みたいに新規で来るとなかなか土地もないし、場所を探すのも大変。少ないスペースの中で、ある程度収益もあげられ、その土地に合った作物作り（さつまいもや大根）が良いかなと思い、自然栽培という方法でやっています。

—— 田原市での暮らしはどうか？

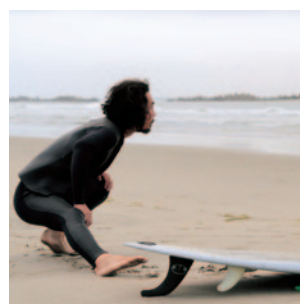
すごく快適で、最高の生活だと思います。自分で農業をしているので、海も好きなきに行けるし、子どもを見送ったり帰ってくる時に家にいることができます。埼玉県に住んでいたときは、朝の6時に家を出て、帰ってくるのも20時過ぎだったので、家族の時間が全然なくて。農業を選んだからこそ時間が上手に使えるのかな。

—— 森屋さんの家は空き家を活用されたと伺いました。

現在田原市には、空き地・空き家バンクという仕組みがあります。僕が来た当初はなかったので人づてに探しましたね。古民家に住むことが憧れだったので、手直ししながら生活しています。空き地・空き家バンクなど、どんどん活用されると良いですね。

—— 森屋さんにとってサーフィンとは？

趣味というよりは、生活の一部です。サーフィンは、朝良いときもあれば、昼や夕方が良いときもあります。波の状況が分かる場所にいないと、実際良い波には乗れないのです。暮らしの中で波を見られる環境を目指した結果、今の自分があるように思います。



- | | |
|---|--|
| 1 | 1.古民家に住むのが夢だったという森屋さん。広々としたお庭で家族との時間を過ごす |
| 2 | 2.奥様と、小学校3年生・5歳・3カ月の男の子、お父さんの6人家族で住んでいる |
| 3 | 3&4.暮らしの一部のサーフィン。自宅にはサーフボードが洗える空間も |
| 4 | |

森屋さん Q&A

Q: ホームポイントは？
A: 新日本・ロコ

Q: ショートorロング？
A: ショート・ロング
どちらも

Q: サーフィン歴は？
A: 18年

Q: 住まいから海まで何分？
A: 徒歩5分、車で2分

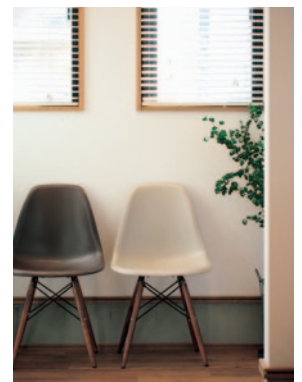
心から満たされる暮らしを実現。

～ 美容師 馬淵さん編 ～



馬淵 哲男 さん(40歳)
小学1年生の男の子と、3歳の女の子の2児の父。岐阜県各務原市で美容院を営み、移住とともに市内で美容院を営む。

「海が身近にあることで、心にもゆとりができました。」



- 1
- 2
- 3
- 4

1.髪と真摯に向き合う馬淵さん 2.ご夫妻で営むアットホームな美容室 3.待合室の空間。オシャレな椅子が魅力的 4.最近では子どもたちと一緒に海で貝殻拾いもするそう



—— いつ移住を決めましたか？

岐阜から3時間かけてサーフィンに通っていました。海の近くに住みたい!と、30歳の頃、田原市に移住しようと思ったんですが、土地がなかなか見つからず断念…。その後、長男が小学校に進学するタイミングで2度目の移住チャレンジをして、とても良い場所に土地があり一目惚れ!もう、後悔はしたくないと移住を決意しました。

—— 馬淵さんにとってサーフィンの魅力とは？

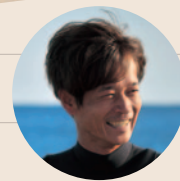
サーフィンは「波に乗せてもらう」までが難しかったです。沖に行く・板に立つまでが長い道のりでしたが、初めて波に乗れた感覚が忘れられなくて。難しいからこそ、魅力を感じましたね。

—— 移住して心の変化はありましたか？

岐阜で美容院を2店舗経営していたときは「仕事＝生活のため」でした。心に余裕がなく、日々ストレスもたまって。移住後は、海がより身近に感じられるし、子どもと接する時間もグッと増えました。気にもしなかった植物にも興味が湧いたりして、以前とは全く違うスタイルで、心から満たされる生活を送っています。



馬淵さん Q&A



- Q: ホームポイントは?
A: ロングビーチ・新日本
- Q: ショートorロング?
A: ショートボード
- Q: サーフィン歴は?
A: 17年
- Q: 住まいから海まで何分?
A: 車で3分

自宅から波のチェックができる喜び。

～ 飲食業 清水さん編 ～



「営業前・後にサーフィンができる暮らしに大満足!」

清水 昌弘 さん(41歳)

生まれも育ちも兵庫県神戸市。会社を辞め独立しようと35歳で田原市へ移住。現在は市内で飲食店を営む。



—— なぜ神戸市から田原市へ移住を？

阪神大震災の影響で、母が観光で来た田原市を気に入り、先に移住をしたんです。神戸市では、海が見える街に住んでいたこともあって、ここが気に入って。僕が35歳になったときに母が病気がちになり、会社員を辞めてお店を出したいと思った時期が重なり、田原市へ移住しようと決めました。

—— 今、海の近くにお店&自宅があって素晴らしい環境ですね。

神戸に住んでいるときは、サーフィンができる海まで3時間以上かかっていたのに（四国や和歌山など）、今では海まで2分程度の場所。自宅の2階から海が見えるので、波チェックもできます。海にはお店の営業前に入って、夕方もう1回入るので、営業時間もサーフィンに合わせました（笑）。

—— 田原市の魅力について教えてください。

移住者も多く、みんなとても優しいです！田舎だから不便かな～と思っていたのですが、欲しいものはネットで購入できたりするので、快適に過ごしています。



1	2
3	4
5	

1.こだわりのコーヒーを淹れる清水さん 2&3.夫婦二人三脚で飲食店を営む。撮影中も終始ニコニコ笑顔でいっぱい 4.観光客にも大人気のお店 5.営業前・後には必ずサーフィンを楽しむ



清水さん Q&A

Q: ホームポイントは？

A: 新日本・先端

Q: ショートorロング？

A: ショートボード

Q: サーフィン歴は？

A: 20年

Q: 住まいから海まで何分？

A: 車で2分



実際に移住ってどう？ 奥様から見た“移住の本音”。

今回本誌で取り上げた、サーフィンが好きで移住した4組の家族。
サーフィンがある暮らしって憧れる！
けれど、実際に暮らしてみてもう？子育ての環境は？
など、奥様たちの“本音のたはら暮らし”について伺いました。



菅原 百恵さん
愛知県豊田市出身、ご主人の仕事の転勤で田原市へ。
▶P 04へ

馬淵 あすかさん
愛知県田原市出身、高校卒業後から岐阜県各務原市で17年暮らす。
▶P 08へ

森屋 美穂さん
愛知県豊川市出身、結婚と同時に埼玉県川越市で暮らす。
▶P 06へ

清水 麻美さん
愛知県名古屋市出身、平成29年夏頃には第一子誕生予定。
▶P 09へ

—— 田原市のことは最初知っていましたか？

- 森屋 ● 豊川出身なので、田原のことはある程度知っていました。埼玉のときは東京まで約30分で行けたので、結婚当初は遊ぶ場所もたくさんあったりして。けれど出産してからは、都会で暮らす上での窮屈さを日々感じましたね。
- 菅原 ● 昔、ボディボードをやっていたので田原も知っていました。生まれも育ちもずっと豊田市だったので、田原市へ転勤になるという話を主人から聞いたときは、正直不安でした。
- 清水 ● 確かに不安ですよね。私も田原の具体的な場所が分からなかったのですが、初めて来たときに、すご〜く景色が良くて。南国のような雰囲気に癒されましたね。

—— 移住する前に、田原市のことをどうやって知りましたか？

- 馬淵 ● 私たち夫婦は美容院を経営しているので、美容商品の販売ディーラーさんに田原市のことを聞きました。
- 森屋 ● 友人が田原の若見エリアに住んでいるので、実際に暮らす生の声を聴けました。その友人が不動産屋さんを紹介してくれたりしたので、とても助かりました。

—— 移住の決断はご主人？それともお互い？

- 菅原 ● 会社が決めたことでもあるので、やはり主人ですね。仕事の転勤だからしょうがないか…と最初は思っていました。しかし、上の子がちょうど小学校にあがるタイミン

グだったので、時期的には良いかなと。

馬淵 ● 私たち夫婦が出会ったのがオーストラリアだったんですが、海がお互い大好きで。海がある場所に住みたいねという話があって、「伊豆もいいね～けど愛知の田原も海があるよ」って感じで、お互いの意志で移住しようかと決めました。都会はもう十分…(笑)。子どもを育てるのは自然いっぱい場所が一番だと感じました。



馬淵 ● 岐阜もとても便利で、子どもの進学も名古屋が近いし安心。という感じだったんですが、田舎で子育てしたいと主人が言っていて。移住して、もし合わない・ダメだったら、そこから考えればいかって夫婦でポジティブに考えて決めました。親や友だちには「なんで田舎に行くの?」って、反対されましたけど…(笑)。

—— 実際に田原市で暮らしてみているいかがですか？

馬淵 ● 野菜がこんなにおいしいんだってことを知りました(笑)。主人はあまり野菜が得意ではなかったのですが、田原に来て野菜を食べた途端「野菜が甘い、おいしい」と感動したんです。それには驚きました。



菅原 ● 田原に暮らして12年目になりますが、子どもが伸び伸び育つ環境かな。子どもが通う学校の生徒数が多くないからこそ、先生の目が行き届きやすい。あとは、学校行事で地引き網があったりして、都会ではできない体験ができるのも良いですね。

一同 ● 分かる(笑)。

森屋 ● あと、子どもたちが走り回っても安心。男の子3人だからこそ、外であれだめ、これだめ!という言葉も出ないし、ストレスもないです。

清水 ● そうなんですね。なんだか子育てがとても楽しみになってきた!

—— 子育てするには、田原市はいい環境ですか？

菅原 ● 自然と触れ合える機会も多いですし、のびのびと子育てができる環境なので、田原って良い場所だな～と思いました。

森屋 ● 今下の子が10カ月なんですけど、赤ちゃんなら健診や市の母乳相談など、育児について相談できる場がありますよ。

清水 ● 妊娠中は、地元の名古屋市よりも田原市の方が妊婦健診が安かったり、市がバックアップしてくれるのがありがたいです。ただ、以前住んでいた場所(名古屋)にはたくさん産科や病院があったのですが、田原に来て病院が少ないということを知って、何かあったらどうしようと思うときもありますね。

菅原 ● 上の子が今高校3年生なんですけど、どこに行くにも交通機関が少ないのが唯一の欠点。子どもが大きくなると親が送迎をすることになるから、中学・高校生になるとちょっと大変になるかも。

一同 ● そうなんだ! 知らなかった。

—— 暮らしてみて、「カルチャーショック!」みたいな経験ありましたか？

森屋 ● 最初ビックリしたのは、地域の集まりですね。自宅で「地域の会合」をするのですが、その中でもたくさんのしきたりがあるのに驚きました。

馬淵 ● そうなんですね! 私の住んでいる所は聞いたことないんですが、田原市でも地域によって違うのかもしれないですね。

清水 ● けど、ある意味メリットになりますね。地域の人と触れ合えたり、情報だったり、絆が深まりそう。

森屋 ● そうですね、そこで顔見知りにもなるし、いろんな地域の情報も交換できるからメリットになりますね!

—— 最後に、奥様目線での田原市の魅力って何ですか？

森屋 ● わざわざ遠くへ出かけなくても、身近な場所で子どもたちが満足してくれますね。サンテパークたはらで遊んだり蔵王山でハイキングをしたり、近い距離でさまざまな楽しみ方ができるのが魅力かなと思います。

清水 ● なんといっても風景が良いことですね。ちょっとしたリゾート地のような雰囲気が大好きです。

菅原 ● 息子がサーフィンをやっているの、父親との共通の趣味があることは母親から見てもいいな～と思いますね。

馬淵 ● いろいろ魅力はあるけれど、餅投げが結構多い! というよりも、頻繁にありますね。子どもやママ友から、餅投げ情報が入ってくるんです(笑)。

一同 ● 笑! 餅投げ良いよね。テンションが上がる!



- 駐車スペースやアクセス道ではモラルある行動と運転をお願いします。
- 海の中でのルールやマナーを守り、楽しくサーフィンできるように心掛けてください。

田原市のサーフポイント



愛知県田原市はサーフィン×観光が楽しめる「サーフタウン構想」に取り組んでいます。

渥美半島の太平洋岸(遠州灘沿い)は、一年を通じてサーフィンに適した波があり、全国有数のサーフィンスポットで全国から多くのサーファーが訪れています。「太平洋ロングビーチ」や「ロコポイント」など、サーフィン世界大会や国内大会なども開催されています。サーフィンとともに田原市の特徴のひとつでもあるのが、自然豊かな海・山などの観光資源。これらを活用して“サーフィン×観光”が楽しめる「サーフタウン構想」に取り組み、渥美半島田原市の地域活性化を目指します。

愛知県田原市への定住・移住についてのお問い合わせ

愛知県田原市役所 企画部 人口増企画室
 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1
 TEL 0531-23-3728 FAX 0531-23-0669
 ☐ jinkou@city.tahara.aichi.jp



田原市公式Instagram #たはら暮らし

一人ひとりのたはら暮らし。ちょっとのぞいてみませんか。
 Instagramで「田原市」(@tahara_kurashi)と検索。



愛知県田原市の観光についてのお問い合わせ

愛知県田原市役所 産業振興部 商工観光課
 TEL 0531-23-3522
<http://www.city.tahara.aichi.jp/>



渥美半島観光ビューロー
 TEL 0531-23-3516
<http://www.taharakankou.gr.jp/>

